

タイトル「2024年度大学院危機管理学研究科(公開用)」、フォルダ「大学院危機管理学研究科」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー			
科目名	危機管理法制4 (行政・国家)		
担当教員	杉山 幸一		
対象学年	1年,2年	開講学期	前期
曜日・時限	水5		
講義室	1301	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	—		
科目中分類	修士		
科目小分類	講義・コア		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP1 [意欲・経験・適性] 災害, テロ, 国際紛争等, 複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察 (25%)</p> <p>DP2 [学識・専門技能] 災害, テロ, 国際紛争等, 複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための, 法学, 政治学, 国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能 (50%)</p> <p>DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力 (25%)</p>		
教員の実務経験	なし		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	<p>危機管理に関する研究を行う上で, 危機管理に係る法律や制度, またそれらの運用についての正確な知識および実践を理解することは不可欠である。本講では, 国家がどのような法律, 制度に則り, 危機の未然防止や, 危機発生時の被害拡大を防ぐための活動を様々な関係諸機関と連携しながら行っているのかを実際の事例に基づき学修する。国家を起点としながら, 危機管理には様々なアクターが関わるため, その前提となる根拠法, 制度, 枠組みの理解とその深遠化は実対応においてきわめて重要となる。これらの研究プロセスを通じて, 学識・専門技能に加え, 判断力・思考力・表現力等の汎用的能力を開発することを目的とする。</p> <p>授業形態は講義形式により行います。なお, 対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として, 又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード: 立憲主義、三権分立、人権保障、緊急事態条項</p>		
授業の趣旨	<p>■副題 憲法学と危機管理</p> <p>■授業の目的 危機管理に係る法律や制度を知るだけでなく, 憲法をはじめとした法解釈や法律の運用について, テーマごとに調べ, その成果をまとめ, 発表する。この各過程を通じて, 学識・専門技能に加え, 判断力・思考力・表現力を開発することを目的とします。</p> <p>■授業のポイント 本講義では, 危機管理に関する法律や制度, そしてその運用のために必要な知識を, 憲法学を通じて習得することを目的とする。憲法は国家の基本法であり, すべての法律はこの憲法に基づき制定される。これが立憲主義であり, これを理解するために法解釈などが必須となる。また, 緊急事態の際には国民の権利自由を制限することで事態に対処することになり, 慎重な判断が求められる。そのための知識や判断力や思考力などを養い, いざというときに解釈し, 実践できるための姿勢を養成する。</p>		
総合到達目標	<p>■災害, テロ, 国際紛争等, 複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するため, 憲法学の知識を習得する。 憲法学と危機管理との関係を説明できる。(第2回~第15回)</p> <p>■憲法学の視点から, 危機的状況に際しての判断力・思考力・表現力等の汎用的能力を開発することを目的とする。 日本国憲法の仕組みや法解釈について説明できる(第2回~第8回, 第14回~第15回) 諸外国の憲法と危機管理の関係について説明できる(第9回~第15回)</p>		
成績評価方法	<p>■授業内のレポート: 2回(80%, DP1, DP2, DP3) (評価の観点) 講義内容を踏まえ, 与えられた設問に対して, 的確かつ論理的に答えているかどうかを評価します。 (フィードバックの方法) 授業中に説明する。</p> <p>■授業における個別質問への回答内容等授業参加度(20%, DP1, DP2, DP3) (評価の観点) 判断力・思考力・表現力を評価します。 (フィードバックの方法) 講義中, 必要に応じてコメントします。</p>		
履修条件	特になし		
履修上の注意点	特になし		
授業内容	回	内容	
	1	<p>①授業テーマ ガイダンス</p> <p>②授業概要 ガイダンスの聴講と個別質問により, 当該科目の到達目標や授業計画, 授業運営や成績評価方法について想起できるようになる(DP-1, 2, 3)。</p> <p>③予習(120分) シラバスの内容を精読し, 当科目の学修内容を理解し, 学修計画を作成する。</p> <p>④復習(120分) 講義ノートを確認して, 自身の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。</p>	
	2	<p>①授業テーマ 憲法と立憲主義</p>	

	<p>②授業概要 立憲主義、憲法、国家について説明できるようにする。(DP-1,2,3)</p> <p>③予習(120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、立憲主義や憲法を理解する。</p> <p>④復習(120分) 講義ノートを整理し、危機管理と憲法の関係について考察する。</p>
3	<p>①授業テーマ 国家と憲法</p> <p>②授業の概要 憲法は国家の基本法とされている。そこで、憲法の構造や国家との関係について理解する。(DP-1,2,3)</p> <p>③予習(120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、国家秩序の維持と危機管理について理解する。</p> <p>④復習(120分) 講義ノートを整理し、国家と憲法の関係について考察する。</p>
4	<p>①授業テーマ 日本国憲法と人権保障</p> <p>②授業概要 日本国憲法では、国家の危機に対する規定が存在しない。日本は法律レベルで危機的状況に対応しようとしている。さらに危機管理法のもとで人権保障が制限されることを理解する。(DP-1,2,3)</p> <p>③予習(120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、日本国憲法下における人権保障と人権制限について理解する。</p> <p>④復習(120分) 講義ノートを整理し、日本国憲法における人権制限に関する考え方と実際の判例や問題点について考察する。</p>
5	<p>①授業テーマ 日本国憲法と統治機構</p> <p>②授業概要 日本国憲法では、国政は国民の信託に基づくとされている。国民の信託を受けて国家を実際に運営する統治機構の法制度、さらに統治機構が国民の信託を裏切らないようにするための権力分立について、危機管理の観点から説明できるようにする。(DP-1,2,3)</p> <p>③予習(120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、統治機構と権力分立を理解する。</p> <p>④復習(120分) 講義ノートを整理し、危機管理と権力行使の関係について考察する。</p>
6	<p>①授業テーマ 平和主義と憲法9条</p> <p>②授業概要 日本国憲法は平和主義を宣言し、憲法9条では平和主義を具体化するため、戦争放棄、戦力不保持、交戦権の否認について定めている。それぞれどのような経緯で現行憲法に導入され、どのような意味を有するのか、日本の安全保障政策の基本である憲法9条をどのように解釈すべきか、国際法的視点も考慮して考察する。(DP-1,2,3)</p> <p>③予習(120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、日本国憲法9条の解釈と国際法との関係を理解する。</p> <p>④復習(120分) 講義ノートを整理し、わが国に安全保障の基本が何かについて考察する。</p>
7	<p>①授業テーマ 自衛権と自衛隊</p> <p>②授業概要 憲法9条の下で、わが国は自衛隊を有している。自衛隊の保有に至るまでの経緯を概観し、わが国の自衛隊とは憲法上どのような根拠をもって存在しているのか、そして自衛隊の存在理由の一つである自衛権について憲法上どのようにとらえればいいのかを考察します。さらに、近年問題となった集団的自衛権を含む日本における自衛権の変遷や比較法的に概観し、現在の安全保障体制について理解する。(DP-1,2,3)</p> <p>③予習(120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、憲法9条の下での自衛権の解釈や自衛隊の権限などを理解する。</p> <p>④復習(120分) 講義ノートを確認し、憲法9条の解釈をあらためて確認し、現行憲法下における自衛隊、日本の安全保障、危機管理について調べ、考える。</p>
8	<p>①授業テーマ アメリカ合衆国憲法と危機管理</p> <p>②授業の概要 アメリカ合衆国憲法の下で、国家に危機的な状況(緊急事態)が発生した場合、どのような権限があるのか、そして大統領、議会、州政府などが緊急事態に対して機能するのか。さらに憲法で保障されている人権はどのように制限されているのかを考察します。</p> <p>③予習(120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、アメリカ合衆国憲法を理解する。</p> <p>④復習(120分) 講義ノートを確認し、アメリカ合衆国憲法と危機管理について調べ、考える。</p>
9	<p>①授業テーマ イギリスにおける危機管理法</p> <p>②授業の概要 イギリスは成文憲法を持たない、不文憲法の国である。そこで憲法典(成文憲法)を持たないイギリスの法体系・法の支配を概観し、危機的状況に対してどのように法的な対応が可能なのか、そして人権・権利の制限はどのように行われているのかを考察します。</p> <p>③予習(120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、イギリスの法の支配を理解する。</p> <p>④復習(120分) 講義ノートを確認し、イギリスの法の支配と危機管理について調べ、考える。</p>
10	<p>①授業テーマ ドイツ連邦共和国基本法と危機管理</p> <p>②授業の概要 ドイツ連邦共和国基本法の下で、国家に危機的な状況(緊急事態)が発生した場合、どのような権限があるのか、そして連邦政府、連邦議会、ラントなどが緊急事態に対して機能するのか。さらに基本法で保障されている権利はどのように制限されているのかを考察します。</p>

	<p>③予習 (120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、ドイツ連邦共和国基本法を理解する。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認し、ドイツ連邦共和国基本法と危機管理について調べ、考える。</p>
11	<p>①授業テーマ フランス第5共和国憲法と危機管理</p> <p>②授業の概要 フランス憲法の下で、国家に危機的な状況（緊急事態）が発生した場合、どのような権限があるのか、そして政府、議会などが緊急事態に対して機能するのか。さらに人権・権利はどのように制限されているのかを考察します。</p> <p>③予習 (120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、フランス憲法を理解する。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認し、フランス憲法と危機管理について調べ、考える。</p>
12	<p>①授業テーマ 諸外国の憲法と危機管理</p> <p>②授業の概要 第8回～第11回で取り上げなかった諸外国の憲法をいくつか取り上げ、それらの憲法による緊急事態対応について考察する。行政府や議会などの国家機関が緊急事態にどのような権限を持ち、機能するのか。そして保障される人権・権利をどのように制限するのかを考察する。</p> <p>③予習 (120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、取り上げる諸外国の憲法を理解する。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認し、諸外国の憲法と危機管理について調べ、考える。</p>
13	<p>①授業テーマ 大日本帝国憲法と危機管理</p> <p>②授業概要 大日本帝国憲法では、国家の危機に対しての規定が存在した。いわゆる国家緊急権について、大日本帝国憲法の制度や運用を確認し、そしてその運用の失敗について分析する。(DP-1,2,3)</p> <p>③予習 (120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、大日本帝国憲法における危機管理を理解する。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認し、大日本帝国憲法における危機管理の運用と失敗の関係について考察する。</p>
14	<p>①授業テーマ 日本国憲法と国家緊急権</p> <p>②授業概要 日本国憲法は大日本帝国憲法と異なり、国家緊急権に関する条文がない。そこで、日本国憲法の下で議論されている国家緊急権についての先行研究や諸外国の制度を概観し、国家緊急権の必要性の有無について理解する。(DP-1,2,3)</p> <p>③予習 (120分) 事前配布資料及び参考文献該当部分を精読し、現代の憲法下での国家緊急権議論を理解する。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認し、わが国に国家緊急権が必要なのか否かについて考察する。</p>
15	<p>①授業テーマ 憲法と危機管理 (まとめ)</p> <p>②授業概要 前半の講義内容から出題する。出題の解説に基づき前半の講義のポイントを押さえる。(DP-1,2,3)</p> <p>③予習 (240分) レポートの準備をする。</p> <p>④復習 (60分) 解説に基づき答案を再構成する。</p>
関連科目	危機管理法制5・6、社会安全・治安維持特講、犯罪・刑事司法特講、テロリズム対策特講、危機管理学研究演習 I～IV
教科書	
参考書・参考URL	奥平康弘・樋口陽一編『危機の憲法学』（弘文堂、2013年）
連絡先・オフィスアワー	<p>■連絡先 開講時に告知します。</p> <p>■オフィスアワー 開講時に告知します。</p>
研究比率	<p>■危機管理と法学とのバランス 危機管理20%；法学80%</p>

